

『水の恵み川との営み 新潟の魅力「水の都」にいがたからの発信』

第14回
水シンポジウム2009
in にいがた

【シンポジウム】平成21年8月11日(火)

朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

【現地見学会】平成21年8月12日(水)

【報告書】



土木学会CPDプログラム

市民団体等による活動発表②

13:10~14:20 朱鷺メッセ 中会議室301

	発表団体名	発表テーマ
1	NPO法人水環境技術研究会 《発表者》早川 典生	水環境、雪、雨のたどる山、川、湖沼、海岸に、人と水との共生の姿を求めて
	<p>活動趣旨</p> <p>水環境に関係する環境問題を考え、現代社会の水環境のあるべき姿を描き出し、もって水環境の有効利用や環境保全、防災基盤整備の推進に寄与することを目的に活動しています。</p>	
2	小阿賀未来の会 《発表者》金森 敦子	小阿賀未来の会の活動
	<p>活動趣旨</p> <p>信濃川と阿賀野川を結ぶ小阿賀野川、まだ自然がたくさん残っているこの川に親しみながら、歴史と自然を確実に次世代に手渡すことを目的に活動しています。</p>	
3	新潟市立東山の下小学校 《発表者》東山の下小学校5年生	通船川プロジェクト2009
	<p>活動趣旨</p> <p>通船川プロジェクトとして、通船川の歴史や水質、ゴミや魚などの調査を通して、身の回りの環境を考え、未来の通船川に夢を描いています。</p>	
4	NPO法人加治川ネット21 《発表者》若月 学	よりよい自然環境を次世代の子どもたちへ ～地域の豊かな自然環境を知る～
	<p>活動趣旨</p> <p>「より良い自然環境を次世代の子どもたちへ」を合い言葉に、地域環境の保全・啓発に関する活動を行っています。特に地域環境の保全にあたっては、それに携わる人材の育成が不可欠であるとの観点から、会員が持っている専門的な知識や技術を活かして、子ども達への環境学習や親子を対象とした体験型・環境講座の開催などを行っています。</p>	
5	NPO法人ねっとわーく福島潟 《発表者》尾形 光弘	ねっとわーく福島潟の活動について
	<p>活動趣旨</p> <p>福島潟をフィールドに自然環境の調査・研究・保全、自然普及活動、多くの市民団体との交流、来訪者サービスなど多彩な活動を実施しています。潟情報の発信では、活動報告集を毎年続けて発行しています。また、潟の普及活動として、観察会の開催・潟舟を利用した潟内の自然観察、小中学校への出前授業、潟先案内人養成講座の開催、福島潟生き物カルタの作成、マコモの植栽など様々な活動を行っています。調査研究では、地域の自然度調査、流入河川の水質と生物調査、オオヒシクイの越冬調査などを行っています。</p>	
6	新潟市立新津第二小学校 《発表者》新津第二小学校5・6年生	新津川をサケのふるさとにしよう
	<p>活動趣旨</p> <p>地域にある新津川や能代川、秋葉山などの豊かな自然や新津油田・新津松坂などの伝統・文化財を活用した総合学習を、学・社・民一体となって進めています。その中の一つとして「新津川をサケのふるさとにしよう」というテーマのもと、環境に対する意識を高め「新津川をきれいにしよう」と地域へ発信する活動に取り組んでいます。</p>	

◇NPO法人加治川ネット21 若月

只今ご紹介ありました加治川ネット21、理事長をやっております若月と申します。これから限られた時間の中で頑張ってお話をしていきたいと思っております。よろしくお願ひします。



私たちの会のフィールドは新潟から約30km北にある新発田市というところ。人口は約106,000人の市で活動しております。この新発田市を流れます加治川と支流、それから加治川流域で子どもは環境活動しております。

この会の目的は、次世代の子供たちに新発田のより良い環境を引き継いでもらったり、味わってもらったりということで、「自然環境の保全」、「文化の振興」、「まちづくり」の観点から、それと「社会教育の推進」という四本柱で活動を行っております。現在、会員は個人が90名、団体、法人会員が30社でやっております。今年で設立13年目となります。今から6年前の2003年には特定非営利活動法人(NPO法人)に組織替えをし、法人化しました。

子どもの主催事業、先程ご紹介した四本柱のうち、ここでご紹介するのは、あくまでも昨年2008年の事業でお話させていただきます。

主催事業としましては、新潟県で絶滅危惧種であります「イバラトミヨの保全活動」、これは新潟県内の特定の場所にしか生息していません。新発田、五泉、中条の3カ所に生息している魚です。その活動を春、夏、秋の3シーズンを通して活動しております。この活動の中には農業者、行政、学校教育の皆さんと手を携えながら行っております。

また、「ぼくらは加治川探検隊!!」という事業ですが、これは2級河川加治川を舞台にしまして、楽しむ、味わう、知る、そして、もう一つチャレンジ、川で泳いでみようということで、先程の通船川では泳ぐことは難しいと思っておりますが、加治川ではすごく楽しく泳げる所もあります。こうした活動を柱として行っております。

社会教育の推進という事業は、新発田地域での地産地消の観点から新発田産、地域産の味噌を作りたいという市民からの要望に応じて一緒に作ったり、学校の先生方から自然環境のことをもうちょっと深く知りたいというお話を受けて、一緒に観察会、学習会、研修会を行ったり、キノコの学習会を行ったりというようなことを実施しております。

このような活動をもとに年4回、「水辺の広場」という広報をジャスコ新発田店はじめ、文化会館、生涯学習センター、地域の公民館などに配布させていただきまして、皆さんに「新発田には、こんなすばらしいところがあるのだよ」というようなことをご紹介してもらっております。また、会報誌につきましては会の活動の詳細を掲載し、発行させていただいております。

Program 1 主催事業 2008年事業

★環境の保全
 ・イバラトミヨ保全活動(春夏秋)
 ・ぼくらは加治川探検隊!!

★社会教育の推進
 ・手前味噌をつくらう
 ・新発田川と酒と歌の集い
 ・先生のための環境学習会
 ・秋の味覚・きのこ観察会

★広報活動の促進
 ・広報「水辺の広場」4回発行
 ・会報「カジカの学君」4回発行

Nonprofit organization: Kajiwari net21

Program 2 学校支援事業 2008年事業

★総合的な学習 関連

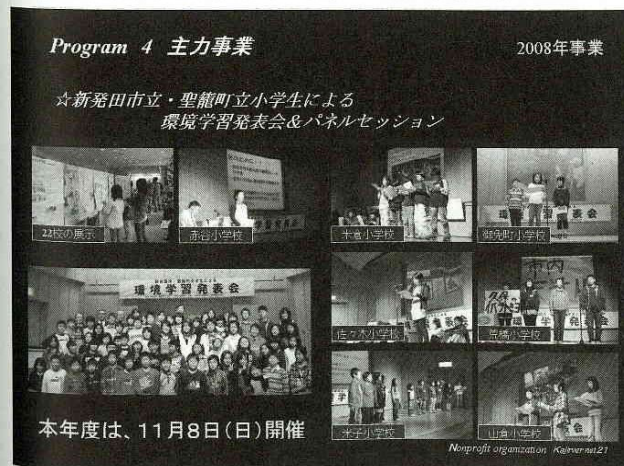
- ・新発田市立米倉小学校 3回
- ・米子小学校 3回
- ・松浦小学校 2回
- ・加治川小学校 2回
- ・佐々木小学校 1回
- ・東豊小学校 1回
- ・赤谷小学校 1回
- ・荒橋小学校 1回
- ・竹俣小学校 1回
- ・東中学校 1回
- ・新潟市立 小新中学校 1回
- のべ 17回

Nonprofit organization: Kajiwari net21

私たちの支援事業としては、総合学習が主力支援でございませう。新発田市は山から海までである地域です、山は山形県、福島県と接しまして、海は日本海までという約50数kmの延長の中でいろいろな小学校区があります。今、新発田には24校の小学校がありますが、昨年市外も含め11校の小中学校をお手伝いさせていただきました。これも最上流の赤谷小学校区でのカワムシ・トビケラから荒橋小学校区や松浦小学校のイバラトミヨ、それから米倉の蛸といった地域の生き物を題材として学校に出向いて総合学習のお手伝いをしております。



次は他の団体支援ということで、農水省関連の農地水環境向上対策というものが主の事業でございませうけれども、その中で新発田の板山地域ですとか向中条、そういった所の水路や圃場整備前の事前調査を行ったり、その後の経緯、経過を基にしたデータ化にもお手伝いさせていただきます。また、北陸農政局の「田んぼの学校」ということで、イバラトミヨを題材にした他団体の学習のお手伝いをさせていただきます。



このような生き物の重要性を解説し、次世代の子供た

ちに素晴らしい地域を引き継ぐために私どもが今行っていることです。子供たちには、自分たちの地域を誇って欲しいという思いで、「実は自分たちの地域には、素晴らしいものがあるよ」というようなことを各小学校の方々からお話していただく場を私どもが提供して「小学生による環境学習発表会とポスター展」を新発田地域で行っています。

昨年は新発田、聖籠の小学校の中から7校に発表していただき、ポスター展では22校の参加でありました。今年も新発田、聖籠そして今お話は途中なのですが、新潟市立の学校も1校参加していただけるということで、今年は11月8日、日曜日に開催する予定になっていますので皆さん見に来てください。



以上のような事業を行っています。私たちは、今出来ることのみではありますが、ささやかながら、まちづくりのご協力をさせていただいているところでございませう。

ここでは当会の事業を全てお話することは出来ませうでしたが、だいたいのところは分かっていたのではないのでしょうか。

ご清聴たいへんありがとうございました。

平成22年 2月24日

各 位

第14回水シンポジウム2009inにいがた実行委員会

実行委員長 中川



「第14回 水シンポジウム2009inにいがた」報告書の謹呈について

謹啓 春寒の候ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平成21年8月11・12日の2日間に渡り、朱鷺メッセ他で開催した「第14回水シンポジウム2009inにいがた」の報告書を刊行いたしましたので、謹呈いたします。

「第14回水シンポジウム2009inにいがた」は、土木学会水工学委員会・国土交通省北陸地方整備局・新潟県・新潟市・新潟商工会議所・東北経済連合会の主催により、メインテーマを「水の恵み 川との営み 新潟の魅力 ～水の都“にいがた”からの発信～」と題し、平成16年の7.13水害のような川の脅威に対する環境と地域づくりを踏まえた今後の『川づくり』、越後平野の発展に寄与した『治水』、水の安全性やおいしさに関わる『水環境』、水辺まちづくりにおける『協働』など、様々な角度からの意見交換や活発な討議が行なわれ、その内容を本報告書に収録いたしました。

水に関する様々な取組み等、皆様方のご活動の一助となれば幸いに存じます。

皆様方のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

敬具

第14回水シンポジウム2009inにいがた実行委員会事務局
(新潟県土木部河川管理課内)
担 当：企画調査係 伊藤 弘幸
TEL. 025-280-5412 FAX. 025-283-6517
E-mail: ito.hiroyuki@pref.niigata.lg.jp